



世界一の歴史と人数の学校 バンコク日本人学校

バンコク日本人学校 保坂 信太郎

【バンコク日本人学校について】

バンコク日本人学校は、世界で最も古く、人数の多い学校です。その始まりは、1956年の日本大使館内に開校した「大使館附属日本語講習会」と言われていますが、戦前にも1926年（大正15年）に設立した盤谷日本尋常小学校があったようです。そして、2024年時に全校児童・生徒数は2170人と2位の上海（虹橋）日本人学校の約1000人の2倍以上の子供達が学校で勉強をしています。校訓は、「明るく なかよく たくましく」、教育目標は、「夢や希望をもって前進する子供の育成」です。このことを具現化していくために「徳育・知育・体育・国際性」に重点を置いて、日々の実践に取り組んでいます。

【現地校との交流会】

バンコク日本人学校が1番大切にしている行事があります。それが、タイ現地校との「交流学习会」です。毎年、各学年が様々な工夫を凝らして現地の学校と交流します。その中で印象的だった2つを紹介します。

一つ目は、中学1年生が現地の中学校に行った時のこと、その日が七夕ということ、一緒にタイの七夕飾りを作成したり、短冊に願いを書いたりしました。お互いの短冊に日本語とタイ語の両方で願いを書く際、学習した英語やタイ語を使ってコミュニケーションをとり、何とか完成させることができました。「英語頑張ってよかったな」「英語をもっと勉強したいな」などと、つぶやいていました。これが本当の必要感なのかな。そう感じた瞬間でした。

二つ目は、小学3年生が現地の小学校を迎えて交流した時のことです。閉会式で相手の校長先生から、「コロナ禍でしばらくできていませんでした。前校長から、この交流会の大切さや素晴らしさを聞いてきましたが、今日その意味がよく分かりました。この交流学习会は、未来永劫続けていかなくてはならない。それくらい我が校には大切な行事です」と、お言葉をいただきました。「未来永劫」と最上級の誉め言葉をいただき、ここにいる子供達がタイと日本の懸け橋になってほしい。そう思った瞬間でした。

【全校児童・生徒が参加する運動会】

大きな学校のため、様々な活動が学級・学年単位、小学部中学部別で行われることが多いです。そんな中、昨年からスパチャラサイ国立競技場で、小学1年生から中学3年生（9年生）までが集い、運動会が開催されました。児童生徒・保護者合わせて約3000人の動きなど、種目内容だけでなく行事が安全に進むよう多岐に渡る準備をしました。その行事に実行委員として携われたことは、大変良い経験になりました。当日は、全校児童生徒で「だるまさんが転んだ」を行い、ギネス記録を更新することができました。子供達、保護者、職員、スタッフなど会場の全員が一つになった瞬間でした。

【特色ある活動（通年で行われる水泳学習）】

常夏のタイならではの取り組みとして、健やかな成長を目指し、年間通して水泳学習があります。治安の問題から、多くの児童生徒が登下校をバス通学している影響から運動不足が心配されます。その手立ての一つとして、全身運動の水泳を6月のプール開きから3月まで、1年通して行っています。温かな水の中で楽しそうに泳ぐ子供達の声が今日も校舎に響いています。

